

7062

フレアス

在宅医療がマッサージ需要に追い風

【上場日(市場)】	2019年3月28日 (東証マザーズ)
【設立】	2002年4月1日
【本社所在地】	東京都渋谷区初台
【代表者(年齢)】	澤登 拓社長 (50)
【事業内容】	あん摩マッサージ指圧師によるマッサージサービスを全国の事業所から利用者の自宅を提供する。訪問看護・訪問介護サービスも
【売上高】	37億1100万円
【営業利益】	2億7600万円 (19年3月期)
【公開価格】	1850円
【直近株価】	2052円 (6月18日)

撮影：今井康一



個人宅中心に国家資格者の訪問マッサージを全国で展開。高齢化の進展で今後の需要も高い。右は澤登拓社長

「この世界は『見て覚えろ』の徒弟制度。初日は緊張のあまり、打ったはりを抜かすにお客さんを帰してしまつた」と失敗談を明かす。資格取得後に研修期間がないため、実務は現場で覚えるしかない。教育制度が整っておらず、給与も低いゆえ、続けられる人が少ない状況を変えて、安心して働ける会社をつくらうと考えた。

フレアスの場合、入社初年度に100時間、2年目には75時間、3年目以降も60時間と、徹底した研修を行う。研修以外でも10人に1人のトレーナー人をつけ技術を向上させ、高付加価値化につなげる。関節の可動域を広げるマッサージは、高い技術が必要で高単価。体が動くようになると、介護しやすくなるため、家族からも引き合いが強い。病院から在宅療養への転換が進むに従い、需要はさらに高まるだろう。今は個人宅のみだが、老人ホームと提携し、入居者への提供も狙う。

保険適用のマッサージのほかに、訪問看護事業やホテルでの自費マッサージも展開する。17年には星野リゾートと組み、温泉旅館でのサービスを行っている。株価は初値で4000円台に乗せたが、現状は2000円前後。今期100店まで営業所を広げ、長期的には中国中心にアジア出店も視野に入れる。事業拡大のうえでフランチャイズ化も検討中だ。課題はマッサージ師の数と質の担保である。澤登社長は教育システムの一段の強化に加えて柔軟な雇用を強調する。現在約400人のマッサージ師のうち80人ほどが視覚障害者だが、訪問には同行ドライバーをつけるなど働きやすい環境を整えている。

日本の後期高齢者数がピークを迎える25年を前に、いかにマッサージ師を確保し育成するか。今後の成長のカギだ。(井俣恵美)

肩

こりや腰痛でマッサージ店に行く人は多いが、医療保険を使えるマッサージがあるのはあまり知られていない。在宅で療養する患者向けに、「あん摩マッサージ指圧師」という国家資格者が行う訪問マッサージは、主治医の同意があれば、医療類似行為として保険が適用される。

こうしたマッサージを主力にするのが2019年3月28日に東証

マザーズに上場したフレアスだ。全国に97営業拠点今年6月時点を持つが、マッサージ業界では個人や小規模な業者が多い中、全国展開するのは珍しい。

「これからは在宅医療の時代が来る」。専門学校在学中に確信した澤登拓社長(50)は00年、山梨県で訪問マッサージ事業を創業。マッサージ師として施術を始めたのは小さな治療院からだった。

マザーズに上場したフレアスだ。全国に97営業拠点今年6月時点を持つが、マッサージ業界では個人や小規模な業者が多い中、全国展開するのは珍しい。

日本の後期高齢者数がピークを迎える25年を前に、いかにマッサージ師を確保し育成するか。今後の成長のカギだ。(井俣恵美)